

希望を持って平和に生きつづける こと、を考える



一般財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 安家 周一

人間にとって、どんな時でも、どんな環境の中でも希望を持って平和に生きることができればそれは「幸せ」なのだと思います。そのような生き方を追求できる人間に育つにはどうすればいいのでしょうか。この答えは、幼少期の育ちに関わる大人との関係や生活、遊びの環境にコツがありそうです。

心理学では人間の習性について次のように説明されます。人間は

- 1/ 模倣と創造性（人まねとウソつき）
- 2/ 異質性を排除する（同質を求める）
- 3/ 共感性が欠如している（共感性は生得的ではない）
- 4/ 秘密の宝箱を持っている（人には言えない内緒のことがある）

とされています。この習性から、周囲の人たちによる養護的関わり、環境との関係や人との交流によって徐々に良き市民になるよう社会化していくのでしょうか。その育ちの中で、自分のことだけではなく人と共存することや、他の人が喜ぶように配慮することで生きることの喜びになることを感じられるのでしょうか。毎日子どもが繰り広げる園生活を見ていると、この学びの要素が満載です。

私たちの意欲や希望を持って生きる能動性は、前頭前野と呼ばれる額の内側にある脳の部位が担っているといわれています。脳の育ちで、聴覚、視覚野の臨界期は6～7歳前後なのに対して前頭前野はゆっくり発達し、25歳くらいで成熟期を迎えます。それまでは、なかなか理性的な振り舞いや相手と折り合いをつけることは難しいこともあるでしょう。自分自身の思春期を考えても分かります。

そんな特性を持つ前頭前野ですが、その部位が十分に育つためには小さいころから主体的に能動的に様々な遊びを楽しみ、仲間と豊かな関わりをすることによって前頭前野にドーパミンという物質が大量に分泌され、脳の育ちが促進されるのだそうです。ですから幼児期の子どもの毎日は、まさに「楽しくってしょうがない！」と思える環境で、「自己」と「他者」による社会的相互作用の有機的な繰り返しがなければならないこととなります。

そのような意味からも、保育者の役割は、知識や技能の習得を目的にするのではなく、心が揺さぶられる環境

の構成（心情の揺さぶり）であり、やってみたい、使いたい、遊びたいというやる気（意欲）がわき、遊びに向かう中で、仲間との葛藤や喧嘩が発生することもあります。そのような経験から、どのようにふるまえば楽しい時間が長続きするのかを模索し、ルールを守って楽しむ（態度の形成）賢さを獲得します。5歳児に見られる自分たちの遊びを俯瞰して感じられる知恵付きでもあります。

このような幼少期の充実した学びをもって小学校に進み、学習を狭い意味でとらえるのではなく、生活の中で社会全体の事象や興味などと広く結び付けながら学んでほしいと願います。これがプロジェクト型学習・アクティブラーニングと呼ばれている学習方法です。その様な学びを経て、生活や社会に能動的にかかわり、主体的に自分の生きる社会が良くなるようにしようと考えられる人に育ちあがっていくのでしょうか。

残念ながら、一国のリーダーの共感性が欠如していれば、他国に軍事力をもって侵略することも、両国の若者が戦争で大量に亡くなることは避けられないわけであって、到底理解されることはありません。歴史に汚点を残すこととなります。

参考文献

明和政子（2019）「ヒトの発達の謎を解く—胎児期から人類の未来まで」、筑摩書房



ここがポイント



「自発的活動としての遊び」には たくさんの学びや育ちがある

玉川大学教育学部 教授／田澤 里喜

子どもたちは遊びの中でたくさんのことを学び、育まれていきます。この遊びの中の学びが小学校にもつながるよう2017年改訂の小学校の学習指導要領の総則に次の文章が加わりました。

「(略) 幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう… (略)」(下線筆者)

これは「自発的な活動としての遊びにはたくさんの育ちや学びがあり、小学校はそれを受け止めて、スタートしていきますよ」ということでしょうか。なお、「自発的な活動としての遊び」は幼稚園教育要領等にも示されている言葉です。

この自発的な活動としての遊びとは「～してあそぼうよ!」「昨日の続きやろうよ!」「Aちゃんたちと遊びたいんだけど…」など子ども自らが発して始まるような遊びがイメージできます。つまり、保育者側が決めて、子どもに「させる」ような活動とは異なります。

さて、学校教育法第22条に「幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し…」とあります。「その後の教育」とは、中学、高校といった学校教育だけでなく、生涯学び続けるその基礎を培うことになります。ですから、自発的な活動としての遊びが大切なのも小学校進学のためだけではありません。

このことをふたつの事例から考えます。ひとつは5歳児3学期の事例(写真1)です。一人の子どもが「ラーメン屋さんをやりたい!」とラーメン屋さんづくりをしていると、周りの子どもたちが「一緒にやりたい!」と



写真1：5歳児3学期の事例

様々なアイデアを出し合いラーメン屋さんごっこが始まりました。その中で、ラーメンはもちろん、のれんやチラシやメニューなどいろいろなものを作り始めたのです。そして、この遊びを見ていた担任がドキュメンテーションに「以前と比べて、“足りないもの”や“必要なもの”に気が付いて、自分たちで遊びを進めていく子ども達。同じ“ラーメン屋さんごっこ”の中でも今まで積み重ねてきた関係性や成長を感じますね」と書いていました。

もうひとつは3歳児の事例(写真2)です。パン屋さんごっこと電車ごっこをそれぞれしている子どもたちがいました。そのなかでパンを「いろんなクラスに売りに行きたい」という意見から、電車ごっこしている子どもたちを、保育者が仲介しながら相談して、移動パン屋さんになりました。そして、どんなパンを売るか、どうすればお客さんが来るかなどいろいろと考えて、アイデアを出し合って遊んでいました。



写真2：3歳児の事例

自発的活動としての遊びの中の学びや育ちとは、この二つの事例だけを見ても、いろんなことを面白がり、自分たちでアイデアを出したり、共有したり、困ったことがあったら友達や保育者と一緒に考えたり、試行錯誤したり、今までの知識を活用したりと(これ以外にもたくさんの学びがありますが)、多くの学びがあることがわかってもらえると思います。言われたことができるより、このような主体的な学びが「義務教育及びその後の教育の基礎を培う」のではないのでしょうか。

接続期の教育の前に大切なこと

奈良教育大学学校教育講座 教授／廣瀬 聡弥



国際的な潮流として、幼稚園などから小学校へ移行する際の教育、いわゆる接続期の教育が注目されています。これは、今に始まったことではなく、古くからその必要性について述べられてきました。一般的に新しい環境への移行は、うまく適応できればそれまで以上の発達した段階に移ることができるのですが、適応に失敗すれば発達にとって悪い影響を及ぼすと言われてしています^(注1)。その中で、幼稚園などから小学校への移行は、子どもにとって大きな段差であると指摘されています^(注2,3)。つまり、幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等の間の接続に比べて様々な違いを有しており、円滑な接続を図ることは容易でないことに起因しています。

そのような中、平成29年に公示された幼稚園教育要領等や小学校学習指導要領では、持続可能な社会の創り手として必要な資質・能力の育成や、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の明確化など、学校種や施設類型を越えて子どもの成長を支える手掛かりが共通に整理されました。さらに、令和3年に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」が設置されました。幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会の報告によると、小学校との連携の取組を行っている園が約9割に上るなど、取組が進展しているとの成果がある一方で、幼稚園や保育所、認定こども園の7～9割が小学校との連携に課題意識、各園と小学校における連携の必要性に関する意識の差、半数以上の園が行事の交流等にとどまり、資質・能力をつなぐカリキュラムの編成・実施が行われていないなど、様々な課題が指摘されています^(注4)。そのような課題を背景にして、幼保小の架け橋プログラムでは、幼児期の教育と小学校以降の教育とを円滑につないでいくためには、子どもの成長を中心に据え、関係者の立場を越えた連携により、発達の段階を踏まえた教育の連続性・一貫性の基に、接続期の教育の充実に取り組むことが必要であると述べられています。それでは幼児教育と小学校教育では、どのような違いがあり、それを踏まえてどのような接続期の教育を考える必要があるのでしょうか。

接続期の教育について述べる前に、“教育”について考えたいと思います。皆さんは、かつて幼稚園や小学校、中学校などで、当たり前のように教育を受けてきました。そんな皆さんにとって、教育は当たり前なので価値を見出しにくいものです。しかし、改めて認識して欲しいことは、皆さんが、日頃、行っている人を教育するという行為は、人が築いてきた文化の根幹を成し、とても価値



のあるものだということです。つまり、教育がなければ、現在の人の文化や社会がないと言っても過言ではありません。

そこで、その当たり前である教育について、どのようなイメージをお持ちでしょうか。幼児教育を含めた学校教育をイメージする人が多いと思います。それは、“制度としての教育”です。一方で、人は、他の動物と違って、生きるために必要な知識を1人だけでも、また他者がやっているのを見て真似して学ぶだけでなく、すでに知識を持っている人達から、何らかの形で教わらなければ身につけられない動物として、進化的に生まれついていると言われてしています^(注5)。これは、“行動としての教育”です。つまり、人にとって教育（教える）という行動は、生まれながらに持ち、自然に出てくるものです。

上記の写真をご覧ください。このように子ども達がお互いに教え合っている姿は、園の中で至るところで生じています。また、私が研修等で園を訪問し、保育を観察していると、子ども達から様々なことを教えてくれます。そのような行動としての教育は、人にとって自然な行為ですが、制度としての教育になった時に、様々な弊害が生じてしまうのです。

次号（6月号）では、行動としての教育や制度としての教育から接続期の教育について考えたいと思います。

引用・参考文献

- 注1：古川雅文（1995）「第2章学校環境への移行」内田伸子・南博文（編）『生涯発達心理学 第3巻 子ども時代を生きる－幼児から児童へ』、金子書房
 注2：秋田喜代美（2002）『幼小連携のカリキュラムづくりと実践事例』、小学館
 注3：無藤隆（2004）『幼小連携について考えておくべきこと』幼年教育研究年報、26巻、1-9
 注4：文部科学省「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）」（2023年3月）https://www.mext.go.jp/content/20220405-mxt_youji-000021702_3.pdf
 注5：安藤寿康（2018）「なぜヒトは学ぶのか 教育を生物学的に考える」、講談社

令和5年度事業計画案・収支予算案など承認

● 3.30 第3回理事会

3月30日、第3回理事会が対面とオンラインの併用にて開催され、理事15人が出席しました。安家周一理事長が議長となり、議事録署名人は、満場一致をもって日野彰則理事、錦織昌貴理事が選任されました。

【決議案件】

1、令和4年度補正予算の承認の件

事務室より令和4年度補正予算について、オンデマンド研修を実施したことにより、当初の予算とオンデマンド研修の増収により変動したことの説明がありました。審議の結果、賛成多数で承認されました。

2、令和5年度事業計画の承認の件 (注1)

加藤篤彦専務理事、川名マミ副理事長、岡本和貴研究研修委員長より、令和5年度事業計画について説明がありました。各委員会からは、令和5年度の事業の見通し、オンデマンド研修や幼稚園ナビを含めた本部機能の役割について説明がありました。審議の結果、賛成多数で承認されました。

3、令和5年度収支予算の承認の件 (注2)

事務室より令和5年度収支予算と資金調達及び設備投資の見込みについて説明がありました。審議の結果、賛成多数で承認されました。

4、会員に関する規程の承認の件

加藤篤彦専務理事、事務室より会員に関する規程について説明があり、審議の結果、賛成多数で承認されました。

5、ワーキングチーム設置の承認の件

加藤篤彦専務理事、事務室より令和4年度文部科学省委託研究で実施した事業を継続するために、幼稚園ナビを利用した令和5年度のオンデマンド研修動画の充実を図ることと、幼稚園ナビシステムの向上を目的に、それぞれワーキングチームを設置することについて説明をし、審議の結果、賛成多数で承認されました。

6、賛助会員入会の承認の件

事務室より賛助会員入会の承認について説明があり、新たに株式会社CYBER DREAMと株式会社ニシハタシステムの入会を承認いただきました。

7、令和5年度第1回評議員会の開催の件

議長より第1回評議員会の開催について説明があり、審議の結果、賛成多数で承認されました。

【報告案件】

1、業務執行理事からの執行報告の件

執行理事より業務執行状況について報告がありました。

宮下友美恵副理事長より、文部科学省委託研究事業としてECEQ[®]コーディネーター養成講座の見直しをはじめ、新制度園にも対応した研修俯瞰図の改訂作業等について報告がありました。また、研修俯瞰図については教職員のキャリアステージを主体的に導くために内容を精査したことが報告されました。

川名マミ副理事長より、こどもがまんなかしんぶん、まなび広場を始め、企業へのオンデマンド研修の開拓等について報告がありました。ホームページについては、リニューアルに向けてワーキングチームを設置したこと、保護者、教職員等全ての方に見ていただくために引き続き精査していくことが報告されました。

加藤篤彦専務理事より、本部機能の調整を含め、全日本私立幼稚園連合会の会議に参加し、機構の業務を説明していることや、今後も両団体で連携を図るために活動していくことを報告しました。

安家周一理事長より、全日本私立幼稚園連合会の役員等に当機構の役割、存在意義を伝えるために今年度活動を行ったことが報告されました。

2、第14回幼児教育実践学会の件

岡本和貴研究研修委員長より、第14回幼児教育実践学会の詳細について説明がありました。本研修会は東京の大妻女子大学で4年ぶりに対面形式で開催すること、大会の流れ等について詳細の説明がありました。

(注1) 令和5年度事業計画書



(注2) 令和5年度収支予算書



(専務理事・加藤篤彦)

私たちは幼児教育用品を通じ、幼児教育の質の向上に貢献します。

Gakken



フレーベル館

世界文化ワンダー販売

JAKUETS



研究研修委員会の取り組みとお願い

この数年間、新型コロナウイルス感染症の拡大によって集団活動が制限されたり、外出を控えるようになったりと、子どもの成長にとって様々な影響があったかと思えます。コロナ禍で生まれ育ってきた子どもたちは従前のような実体験が不足していることが懸念されます。また、養成大学等の卒業生においても、教育・保育実習や現場での子どもたちとの直接の触れ合いが不足していることもあるのではないのでしょうか。

そのような状況も鑑み、「豊かな体験が豊かな学びにつながる」ことを念頭に、子どもたちの教育・保育に取り組み、教員の研修においても、対面、オンライン、オンデマンド等のそれぞれの特徴を活かし、その中に講義型、ワーク型、実技型等のスタイルを組み合わせて、立

体的な研修体制を構築していくことが大切だと考えます。機構のオンデマンド研修は既出のものに加え20コンテンツを配信できるよう、また第14回幼児教育実践学会（8月19日（土）20日（日）大妻女子大学）では、口頭発表、ポスター発表において活発な交流・学びが深められるよう準備を進めております。

今年度秋までにお知らせする予定の「保育者として身につけたい資質能力の道しるべ」「保育者としての資質向上研修俯瞰図」「教育研究課題」を参考に、一人一人の先生やそれぞれの園、都道府県や地区において、主体的に研修計画を組み立て、取り組んでいただけることを願っています。

（研究研修委員長・岡本和貴）

目指すは機構の思いを伝える広報

新型コロナウイルス感染症が5月から5類に動き、ようやくコロナ前の日常が戻ってきます。リモートが多かった会議も対面で行う事が少しずつ増えて、もどかしかった思いが少し解消されつつあります。

調査広報委員会として今年度大きく動く事業は、ホームページのリニューアルです。昨年度から、ワーキングチームを立ち上げ素案を作り、ホームページ小委員会で意見を交わしながら、10月のアップに向けて作業を進めています。機構を広く知ってもらう事を目的とし、ECEQ[®]専門部会、研究研修委員会が活用できるコンテンツ、もちろん「こどもがまんなかしんぶん」との連動も視野にいれて作業を進めています。

保護者に向けて思いを発信できる唯一のツールの「こどもがまんなかしんぶん」は概ね好評ですが、これから

も時代にアンテナを張り、保護者の気持ちに寄り添う紙面づくりを目指します。

「まなびの広場」も教職員向けと位置づけが明確になっているので、先生方が活用していただくように、内容を精査していきます。

機構における調査広報委員会の役割は、機構の果たす役割や内容を分かりやすく伝える事だと考えています。伝える相手、目的などを明確にすることが広報の第一歩。次に来るのは伝える側の感性や思いでしょうか。今年度も「チーム広報」として楽しみながら、作業を進めていきます。

（調査広報委員長・高尾恵子）

ECEQ[®]のグランドデザインを再び描く一年に

ECEQ[®]の開発から今日に至るまで、「やってよかったECEQ[®]」の実現のためにシステムの改善を課題として研究を積み上げてきましたが、令和5年度は幼児教育の質の向上から評価の時代へ動きつつある時代の中で、さらに多くの関係機関と連携・協力しながらECEQ[®]のグランドデザインを再び描くことにより、普及・拡大を目指していきたいと思っています。

全国の皆様から「ECEQ[®]がよいシステムであることはわかるが、敷居が高すぎる」「もっと身近に感じるECEQ[®]にならないか」等の声が届いており、実際にECEQ[®]を実施してみなければ体感することができない良さがあることを、どうお伝えし続けていくかは大きな課題ではありますが、「自園の幼児教育の質を向上させたい」という実施園の思いや願いの実現に対し、『ECEQ[®]実施後の自分たちの変化』という評価の視点

から感じていただけるように、これまでの調査研究をふまえ取り組んでまいります。今後もECEQ[®]を広めるために令和5年度は下記の通り計画をしています。

事業計画1) 令和4年度の文部科学省委託研究において、WEBを活用した講座開講のための新たなテキストと教材映像を制作・検証により一定の効果をあげたことから、今年度はその効果をさらに活かすことができるよう引き続きECEQ[®]コーディネーター養成講座もWEBを活用して実施することをはじめ、教授型の講座内容を補うための対面によるワーク形式の講座の開催

事業計画2) 新たな養成テキストや教材映像を用い、ECEQ[®]コーディネーター資格取得者のためのフォローアップ研修の企画、運営

事業計画3) ECEQ[®]実施園のための『実施園マニュアル』の作成

（ECEQ[®]専門部会長・岡本潤子）

機構の活動報告・お知らせ

令和4年度全国教育研究、事務局担当者会議の開催

令和5年3月2日、グランドヒル市ヶ谷において全日私幼連と全日私幼研究機構の令和4年度全国教育研究、事務局担当者会議が開催されました。

本会議は、全日私幼連と全日私幼研究機構が連携を図りながら全国の私立幼稚園や私立幼稚園由来の認定こども園の支援を通じて幼児教育の振興や質向上に取り組んでいることから共同で開催され、全国の教育研究担当者及び事務局担当者、102名の方が参加し、講演・報告が行われました。

まず初めに山西幸子全日私幼連副会長より開会のあいさつが行われた後、宮下友美恵全日私幼研究機構副理事長より趣旨説明が行われ講演・報告が以下の通り行われました。

〔講演①〕

「全日本私立幼稚園連合会のこれからについて」
田中雅道 全日私幼連会長

〔講演②〕

「(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構のこれからについて」
安家周一 全日私幼研究機構理事長

〔報告①〕

「処遇改善等加算Ⅱの理解について」
濱名浩 全日私幼連認定こども園委員長

〔報告②〕

「研修の展開と幼稚園ナビのこれからについて」
安達譲 全日私幼研究機構理事

〔報告③〕

「幼稚園ナビの操作説明について一令和4年度開発機能について」
岩崎正明氏 株式会社ブラテック代表取締役社長

〔報告④〕

「教育研究委員会(研究研修委員会)からの報告」
岡本和貴 全日私幼連教育研究委員長

〔報告⑤〕

「ECEQ®の今後の展開」
岡本潤子 全日私幼研究機構ECEQ®専門部会長

本会議では、両団体の活動、これからについて全国の教育研究担当者及び事務局担当者に示すことができ、盛会のうちに閉会しました。

令和5年度 賛助会員 (園児の保護者等) 入会申込書について

当機構の賛助会費の御礼として配布している「こどもがまんなかしんぶん」は子どもたちのよりよい育ちを中心にご家庭で楽しめる情報提供ツールとしてお届けさせていただきます。賛助会員の入会につきましては随時募集を行っておりますので、下記URLの賛助会員入会申込書よりお申込みをお願いいたします。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

【令和5年度 賛助会員 について】

- 会 費：1口・年間250円
- 入会特典：年10回のこどもがまんなかしんぶんのお届け (8・3月休刊、紙媒体6回、デジタル配信4回)
- HP：<https://youchien.com/publication/pta/>

 Seagullkids

こどもの笑顔に勝る制服はない。

株式会社 矢部スロカッティンク

URL:<http://www.seagull-yabe.co.jp> E-MAIL:yabepro@seagull-yabe.co.jp

本社	〒241-0821	横浜市旭区二俣川 2-85-2	TEL 045-363-6871	FAX 045-361-3085
東京支店	〒179-0084	東京都練馬区永川台 3-21-14		TEL 03-6281-0025
千葉支店	〒276-0026	千葉県八千代市下市場 1-13-8		TEL 047-481-7723
埼玉支店	〒330-0804	埼玉県さいたま市大宮区堀の内町 2-1-1		TEL 048-640-3003
仙台支店	〒981-3131	宮城県仙台市泉区泉中央 1-47-1 アコーズ泉中央 103		TEL 022-218-3217
大阪支店	〒663-8104	兵庫県西宮市天通町 25-15 KIマンション 1F		TEL 079-969-6510
札幌営業所	〒007-0834	札幌市東区北 34 条東 14 丁目 3-1 マンション東豊 1F		TEL 011-712-8088
福岡営業所	〒811-0214	福岡県福岡市東区和白東 2-14-28 エクセル和白 103		TEL 092-605-5080
名古屋営業所	〒464-0083	愛知県名古屋市中千種区北千種 2-3-18 1F		TEL 052-778-7272
広島営業所	〒721-0955	広島県福山市新瀬町 3-27-8		TEL 084-953-8818
仙台工場	〒981-0504	宮城県東松島市小松字稔田 110		TEL 0225-82-8111
稚内工場	〒097-0001	北海道稚内市末広 5-35-1		TEL 0162-32-8111
物流センター	〒981-0504	宮城県東松島市小松字稔田 108		TEL 0225-82-8154
第二物流センター	〒721-0955	広島県福山市新瀬町 3-27-8		TEL 084-953-8818



機構からのお知らせ

ゆたかなまナビを通じた、オンデマンド研修コンテンツの再配信のお知らせ

令和4年11月7日から令和5年2月6日まで配信していた、処遇改善等加算Ⅱに対応したオンデマンド配信による研修（1コンテンツを除く、計9コンテンツ）の研修動画を再配信することになりましたので、ご案内いたします。これらのコンテンツは随時、研修スタンプを発行しております。本研修コンテンツには定員等はありません。是非、ご検討いただきますようお願い申し上げます。詳細は幼稚園ナビに記載しておりますので、ご確認ください。

【講習名／講師】

1. 幼少期における音楽教育のあり方
講師：出原大（むぎの穂保育園園長）
2. 3歳児クラスの絵の具画の進め方
講師：永淵泰一郎（畿央大学准教授）
3. 豊かな遊びをさせる環境教育を考える
～10の姿に向かう主体的な遊びの構成要素～
講師：安見克夫（東京成徳短期大学名誉教授）
4. 子どもの姿に基づく保育の実践と評価
～カリキュラム・マネジメント～
（文部科学省マネジメント分野該当）
講師：北野幸子（神戸大学大学院教授）
5. 子どもが安全にすくすく育つ園づくり
～指針・要領に基づく保育実践から、子どもの健康と安全を考える～
（文部科学省マネジメント分野該当）
講師：猪熊弘子（名寄市立大学特命教授）
6. これからの幼児教育に向けて
（文部科学省マネジメント分野該当）
講師：秋田喜代美（学習院大学教授）
7. 子ども理解が深まるまなざしと保育者の専門性
～doing保育からbeing保育への転換を目指して～
講師：井桁容子（非営利団体コドモノミカタ代表理事）
8. 資質・能力を基盤とした教育とは何か
～幼小の連携・接続を中心に～
（文部科学省マネジメント分野該当）
講師：奈須正裕（上智大学教授）
9. 育ちの理解と記録
講師：味園佳奈（鹿児島純心女子短期大学准教授）

【申込期間】 令和5年3月29日（水）10：00～令和6年2月28日（水）17：00

【動画視聴期間】 令和5年3月29日（水）10：00～令和6年2月29日（木）17：00

【3択5問回答期間】 令和5年3月29日（水）10：00～令和6年2月29日（木）17：00

【申込方法】 幼稚園ナビより、申込を随時受付中でございます。
ご不明な点等ございましたら当機構までご連絡を下さい。

私達は衝撃緩和帽の開発を通じて大切な子供達の未来を守ってゆきます！

ゴツツン!! から、
まもってあげたい。



企画・開発 株式会社リード

〒028-6104

岩手県二戸市米沢字家ノ上3-9-1

<http://hot-anshin.com//index.php>

お問い合わせはこちら

アルファアテンド株式会社

TEL 070-5550-1982

FAX 042-673-2076

alpha.attend@gmail.com

